

フィールド風

宮田守男

(現場)からの

ことは、春から初夏へと季節の足取りが早かったような気がする。めまぐるしく花々が咲き競い、散った感が強いと日本経済新聞

のコラム春秋でも伝えられた。4月から白馬村区長連絡会の会長となり、5月下旬の北アルプス白馬連峰の開山を告げる「第52回貞逸祭・白馬連峰開山祭」に参列した。山岳地帯に久しぶりに行く、新緑の山々、雪解け水の息吹、爽やかな風に、山々の素晴らしさを改めて見つめ直す事が出来た。

だが長野県環境保全研究所などの予測によると、年平均気温が2000年から1000年間で4・7度上昇すると想定。特に白馬岳に生育する「ツクモグサ」「ワルツプソウ」など

地域の宝である山岳地域に積極的に出掛け、魅力の確信と課題を再認識する事が大切だ

盛り上がる。大正8年1月に白馬岳登山案内人組合が結成され、来年100周年を迎える関係者の意気込みが強く伝わってくる。大正

10年代に宮様の相次ぐ登山、新聞でも「宮様も登る山、私たちが

の希少植物に影響が危惧されている。温暖化対策の必要性を山岳行事の機会ごとに、多くの人に伝えてほしいと思う。

行ってみたい」と一般登山熱が高まり白馬連峰にも大勢の登山愛好家が訪れたと長沢武さんの著書「北アルプス白馬連峰」が伝えてい

る。それらの関係資料の多くは、山小屋経営者や案内人が所有して

曜日・夜6時30分からテレビ朝日放送(長野朝日放送)で放映される、縁もゆかりもない

は、3カ月程度白馬に住みながら地方移住の魅力を映し出す企画と聞く。ぜひ、新たな地域魅力を発掘してほしいと願っている



賑やかなシーンで山岳愛好者たちを待たせたこと、開山準備を整えて

移住体験する「イチから住む前略、移住しました」の撮影現場だ。6月3日からの放送が楽しみになる。噂で

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)